平成28年度　土木学会選奨土木遺産「磐越西線鉄道施設群」の認定授賞式・記念フォーラム

JR磐越西線の鉄道施設群は、明治から大正初期の時代に急峻な山々や渓谷をトンネルや橋梁でつなぎ、日本初の架設工法の橋梁、米国製のトラス構造・ピン結合など特徴ある貴重な土木遺産群です。

一方、2011年3月11日の東日本大震災後の3月25日から、臨時石油輸送列車が横浜の根岸から新潟を経由し磐越西線で郡山まで運行され、被災地に暖かさと安心を届けてくれました。震災後5年という節目を過ぎ、ライフラインの機能を再認識するため、磐越西線による臨時石油輸送の役割に関する情報・意見交換を地域住民と共に行ないます。また、地域資源としての楽しみ方も受発信します。

○認定授賞式・記念フォーラム

・磐越西線鉄道施設群：認定理由：明治・大正期の多様な橋梁群、隧道、駅舎、転車台群を有し、

さらに震災時の石油製品輸送などライフラインとして東北と関東を繋いだ貴重な土木遺産

日時：2016年12月10日（土）13：00～16：30

場所：福島県立博物館　講堂　会津若松市城東町1-25（鶴ヶ城の東側）

参加費：無料（先着200名）

13：00～ 開会の挨拶　　　総合司会：公益社団法人 土木学会東北支部選奨土木遺産選考委員会　委員　知野泰明（日本大学）

支部長挨拶　土木学会東北支部長　川瀧 弘之（国土交通省東北地方整備局長）

祝辞　　　　 会津若松市長　室井照平

喜多方市長　 山口信也

13：15～　平成28年度土木学会選奨土木遺産「磐越西線鉄道施設群」認定・授賞式

認定の経過報告　土木学会選奨土木遺産選考委員会　東北支部委員　後藤光亀（東北大学）

認定授賞式

13：30～　休憩

○認定記念フォーラム

13：40～　記念講演「磐越西線鉄道施設群の特徴と魅力」　鉄道総合技術研究所　小野田　滋

　　　　　磐越西線の橋梁・トンネル・転車台などの鉄道施設群の特徴を日本の鉄道構造物の変遷の中で解説し、その魅力を紹介します。

また、他の被災後のライフラインとしての鉄道の実績事例を紹介します。

14：30～　休憩

14：40～16：10　パネル討論会　「ライフラインとしての磐越西線、地域資源としての磐越西線」

コーディネーター：東北大学大学院　准教授　後藤光亀

　　　　　臨時石油輸送で、横浜・根岸～新潟～郡山へと、関東と東北をつないだ磐越西線、それを支えたJR東日本とJR貨物の鉄道マン達の連携を振り返り、道路、電力、道路、水道、ガスなどの事例も交えてライフラインの重要性を紹介します。また、磐越西線によるディ－ゼル機関車の臨時石油輸送を題材にした絵本「はしれディ－ゼルきかんしゃ デーデ」（2013年（株）童心社）に込められた鉄道マンへの感謝の気持ちを共有したいと思います。

パネリスト：

「磐越西線の地形と歴史」福島県立博物館　学芸員　竹谷陽二郎　田中伸一

　　　　　磐越西線の路線は、山線、・川線と区別して呼ばれます。それはなぜなのか？　観光資源であるジオパーク磐梯山、猪苗代湖、阿賀野川、会津盆地、断層などの沿線の地形の成り立ちと景観の素晴らしさに着目し、臨時石油輸送列車が立ち往生したΩカーブの謎解きを行います。また、2014年に開催された「磐越西線100周年」の歴史と取組みを紹介します。

　　　　「ライフラインの鉄道が走る」会津鉄道株式会社　社長　大石　直

　　　　　会津若松出身で土木技術者でもある大石氏から、日常の鉄道の維持管理、非常時の鉄道への思いに関する話題提供をいただき、元仙台駅長であった経験から観光などへの鉄道の取組みについても紹介をしていただきます。

　　　　「一ノ戸橋梁のライトアップとまちづくり」喜多方市 山都総合支所 産業課商工観光係 主事　橋本幸宏

　　　　　「SLばんえつ号」が運行され、乗り鉄、撮り鉄など鉄道ファンの聖地である磐越西線。最も人気のある一ノ戸橋梁のライトアップ事業展開の経緯と、今行われているまちづくりについて話題提供をしていただきます。

　　　　「磐越西線の利活用」日本大学工学部　准教授　知野泰明

　　　　　磐越西線には、廃線となった隧道やスイッチバックなど、まだまだ多くの鉄道遺構が残されています。また、廃線となった日中線など、これら地域資源の利活用について紹介します。

オブザーバー：鉄道総合技術研究所　小野田　滋

16：10～　総合討論

16：30　　閉会の挨拶

主催：公益社団法人土木学会東北支部　　後援：福島県立博物館　　協力：日本貨物鉄道株式会社東北支社

〇問い合わせ先：公益社団法人土木学会東北支部　Tel : 022-222-8509 E-mail : jsce-isan@tohokushibu.jp